

件名	令和7年度 第1回 福井市障がい者自立支援協議会居宅生活支援部会 報告書	作成日	令和 7年 5月30日
		作成者	高田 涼子
日時	令和 7年5 月 15日(木) 10: 00~11:30	会場	市役所 第14会議室 D
出席者	福井市障がい者自立支援協議会 居宅生活支援部会名簿参照		
欠席者	なし	傍聴2名	
報告事項 協議事項	1. 報告事項 (1)福井市障がい者自立支援協議会の運営や体制について (2)地域理解促進研修について (3)地域課題抽出について 2. 協議内容 (1)昨年度の主な取り組み内容の確認と今年度の活動方針(案)について (2)ワーキンググループについて		
1. 報告事項	〔障がい福祉課・城戸氏〕 ・本日の部会の次第と資料に沿って、説明。 委員は令和5年から3年間の委嘱期間だが、今年度は、福井地区精神保健福祉家族会「あすわ会」より水野様が参加となった。		
説明	(1)福井市障がい者自立支援協議会の運営や体制について (資料1参照) 〔障がい福祉課・城戸氏〕 ・地域移行地域定着部会と居宅生活支援部会の役割、相談ミーティングと相談支援事業者連絡の役割、課題や取り組み内容が重なる所があり連携・整理が必要。部会それぞれに、課題整理や協議のあり方の見直しが必要である。 ・当事者参加はこの居宅部会のみであり、当事者の声が直接届くしくみができないかを検討している。報償費についても検討している。 ・今後の検討スケジュールについては、新体制を考えていく上でのスケジュール、体制の検討については、主に運営会議中心に行うが、必要に応じて部会にも情報提供していきたい。		
意見	〔水野委員〕 ・障がい福祉の課題解決は当事者参加だと思う。11 年前に日本政府は、国連の障害者権利条約を批准した。スローガンは、みなさんご存じの「私たちのことを私たち抜きで決めないで」です。決定機関である全体会に当事者の誰も入っていない状況で決まるのは当事者側から見て、どうしてかと感じる。早急に是正すべきではないか。		
説明	(2)地域理解促進研修について (資料2参照) 〔事務局・黒田氏〕 昨年度の主な取組内容の確認と、今年度の活動方針(案)について、資料に沿って説明。 ・昨年度は4ヶ所の地区で主に民協において実施した。森田地区民協では引きこもりや、ゴミ屋敷にどのように接すればいいか等、地域としての困り感の説明があった。川西地区民協でも引きこもりへの支援の仕方や、地域での課題感をどう発信していけばいいのか等の質問があった。九頭竜地区民協と旭地区社協では個別避難計画や避難所に来ることが出来ない方への対応についての質疑や、「気にかけてほしい」といった声も聞いた。		
意見等	〔宮永委員〕 ・今年から防災組織を変えるという事で防災訓練がある。個別避難計画についても私たちの地区でも問題視し始めた。市や消防署は、一時避難に何人集まったか・来れない人はどうなっているかは問わない。行きたくなかったのか、誰も手伝ってくれないから行かれなかった等の理由かを把握していない。報告を聞いて、それぞれの地区と一致していると感じた。 〔吉村会長〕 ・コムサポの方は「来れないのは理由がある」との判断だった。一時避難所がその人に合っているのかを気にかけて欲しい。気にかけるとは実際どうするのか。居宅支援部会としてはこのような声を記録に残して声を出したい。		

<p>説明</p>	<p>(3)地域課題抽出について [事務局・坪田] ・前年度の部会が終了した後に、会をどのように運営して課題を解決していくかに向けたワーキングチームでの協議のなかで、3点の課題と協議内容について意見が交わされた。</p> <p>① 余暇活動の支援・移動について ・余暇活動支援冊子の内容は更新するが、記載されている場所は送迎支援等がないので、移動について深掘りする必要があるという案があがった。</p> <p>② 地域の理解促進＋災害時の対応について ・地域の理解促進の研修時にも災害の話が出ている。危機管理課と相談しながら、進めて行きたい。</p> <p>③ 親亡き後の不安⇒当事者向け手引きの作成 ・福井市障がい福祉課より「障がい者福祉施策の手引き」が出ている。令和6年4月に更新されている。こども部会では「支援が必要な児童のためのハンドブック」がある。今年度更新すると聞いている。18歳以降の支援が書かれているが、どうリンクさせていくか。当事者のための当事者が分かる手引きを、皆さんで積極的に考えていけるといい。</p> <p>・健康面(医療との連携について)で、医療機関との意見交換会が実施出来ないかに関しては基幹相談支援センターでは『精神科の長期入院者の地域移行定着を促進する会議』を年2回開催している。移行定着の方には参加してもらっているが、今後どうするか。関係者が傍聴する事は可能ということだけはお知らせする。</p>
<p>意見等</p>	<p>[吉村会長] ・昨年度、支援者というフィルターはかかっているが、事業所にアンケートを実施し、①～③の課題が見えてきた。この件について皆さんに報告し、①～③のワーキングチームを立ち上げ、協議を進めることとしたい。</p> <p>[水野委員] ・親亡き後は深刻なことである。自宅で取り残されたらどうなるか。同じ目線で寄り添う伴走支援があれば我々は安心する。それが無いがために不安なのが現状である。よりそいに連絡すれば良いと言われたが、精神障がい者には、特定の職員しか話してできないとか、電話すらできないケースもある。</p> <p>[吉村会長] ・親が80歳、子供が50歳になってからではなく、「早め早めの手引書、分かりやすく、心配いらないよ、こうすれば支援者がいるよ」というような辞書みたいな手引きのイメージが個人的にはある。</p> <p>[北川委員] ・医療ソーシャルワーカーとしても、親亡き後は注目する取り組みかと思う。受診においても、代弁するキーパーソン的な方や両親が付き添っての受診後は病状説明し、本人にとっての最善策を一緒に考えていく。だが、親亡き後には救急車で運ばれてきたりしている。そうした時に手引きなどがあると、意志表示等を出すことが出来れば、親亡き後の受診の時に想定される困り事等を、ソーシャルワーカーとしても盛り込んでいけると何よりだと思った。</p> <p>[橋本委員] ・ワーキングチームに参加していて、地域の理解促進と災害を絡めるのはいい方法だと思う。地域の皆さんが個別避難計画をどうやって立てるのか、どうやって本人の同意を得ようかと、そこでの困り感がある。直接、危機管理課に働きかけてもいいのか。可能であれば教えて欲しい。</p> <p>[障がい福祉課・竹内氏] ・危機管理課が協議会などに参加を始めている。障がい福祉課としても連携を持とうといった声を挙げていかなければいけないと思っている。また協力をお願いしたい。</p> <p>[吉村会長] ・旭地区の研修時には前半は危機管理課の説明があった。淡々と説明し、本人自身が望むことが基本という話であった。</p> <p>[丸山委員]</p>

	<p>・最初の説明なので、致し方がないかとも思う。これから具体的なことになる。実際に出て来れない人にどうするかは、我々が考えていかななくてはと思う。</p> <p>[宮永委員]</p> <p>・知的障害者の出前講座で「緊急時の災害対応」をお願いした。内容は知的障害者対応と依頼したのに、一般論であった。危機管理課としての役割、障がい福祉課としての役割が縦割りなので連携を持って横割りで行って欲しい。</p> <p>[水野委員]</p> <p>・地震関係で能登の珠洲市にボランティア活動してきた。その時に珠洲市の社協に地震対応について聞いた。精神障がい者の避難について聞いたが、車で生活するか、車が無理なら半壊した家で生活するしかない聞いた。障がい福祉課は、避難場所の体育館に部屋を設けたと言うが、大勢の人がいる所には引きこもりは行かれない。自分の青写真では、寒さを防げるテントや、簡易住宅に家族と一緒に過ごすのが的確と思う。障がいを持っている家族への配慮を望んでいる。イタリアを参考にしてほしい。</p> <p>[長谷川委員]</p> <p>・民生委員や福祉委員には日頃から声かけはしているが、社協としても意識を高めていきたい。町内では自治会長や防災の係の方ともネットワークが必要。福祉関係者だけでは限られてくる。支援者は、障がい者の方が何を困っているのか知りたい。地域にいても障がい者の姿を見ないと聞く。当事者の家族も、利用している事業所も、地域と繋がろうとする声かけも必要。色々な方向から歩み寄らないと進まないの、地道にやっていきたい。</p>
2. 協議内容	<p>(1)昨年度の主な取り組み内容の確認と今年度の活動方針(案)について (資料4参照)</p> <p>[事務局・黒田氏]</p> <p>～令和6年度の取り組み内容と令和7年度の取り組み方針(案)を主に～</p> <p>資料に沿っての説明</p>
意見等	<p>○障がい者の地域理解促進について+災害時の対応</p> <p>令和7年度の取り組み方針(案)においては、自治会長や福祉委員も巻き込みながら、災害時の対応についても掘り下げて研修をしていきたい。居宅生活支援部会だけではなく、必要に応じて障がい福祉課、危機管理課等と巻き込んでいきたい。</p> <p>○余暇活動の充実+移動の課題について</p> <p>移動の課題も冊子に盛り込みたい。必要に応じては現地の方まで調査し、活動の中に移動についてもスポットを当て、協議をして冊子の補強もしていきたい。</p> <p>○親亡き後の課題について</p> <p>当事者向けのサービス・制度一覧の作成。地域で生活していくために、何が必要なのか等の情報をまず学ぶ機会の発信と設定等。</p> <p>[北山委員]</p> <p>・アンテナを張るのが今年度かと思った。例えば地域移行定着部会と被ることがある。冊子についても、こども部会と被るところがある事を頭に置きたいと思った。</p> <p>・障がい者の地域理解促進と災害を同様にと聞こえたが、別個にしたらいかがかと提起したい。地域理解促進に立ち戻って考えた方がいいのでは。講座をして民生委員から災害について抽出できたから、くっつけばいいではない。危機管理課の方がこのワーキングに参加するようなことをやらないと何も変わらない。</p> <p>・親亡き後の課題でも、冊子作成して終わりになりがちである。現在も2種あると聞いた。何個でも作ればいいものではない。介護保険の冊子といったものも参考にするといいのではと思う。</p> <p>[吉村会長]</p> <p>・災害と一緒にしないほうがいいという意見があったが、いかかが。</p> <p>[竹澤氏]</p> <p>・少し整理をして進めてもいいのではないかと思う。親亡き後の課題では、福井県社会福祉士会ではパートナー福井という、後見人を受任できる登録者が約100名いる。最初の高齢者が被後見人だったが、精神・知的の障がい者の方の受任が増加している。成年後見センターにどういった方が研修を受けているかを聞いてもいいと思う。障がいの家族会の所</p>

に成年後見制度の研修もしていきたいと個人的には思っている。

[吉村会長]

・居宅支援部会でどういふことをやるべきかを、北山氏は問うているのではないかと思う。別枠で設けた方がいいかどうか、他の意見はないか。

[大角委員]

・意思決定の部分、どうしたいかを本人や家族が選ぶようにしていく、選ぶにはまず情報が要る。選択する場所を見たり等、色々やらなくてはいけないことが沢山あるなど感じる。それぞれのワーキングで、どこからどこまでの取り組みをしていくかを話していくと思うが、本人や家族が選択できるところまで、意思決定の部分を居宅支援部会だけでなく、協議会全体でしっかり取り組んでいく必要があるかと思う。

[稲木委員]

・危機管理課職員に向けて研修をしたり、障がい者の雰囲気などを理解してもらってから、出前講座に出向いてもらうのではないか。

[吉村会長]

・別枠と言う意見でいいということか。

[石森委員]

・冊子を見ると障がいの軽い方向けではないかと思う。重度な方は紹介する場所もない。事業所も土日を縮小していこうというところで、社会資源が少ないと感じている。

[中村委員]

・余暇活動の場所の移動を調べて、色々広がるように作っていけるといいと思う。

[山越委員]

・国際障害者条約を日本が批准して10年経って、やっと障がい者が一般の動きについていけるかなという活動に入っている。そんな大事な時に自分も仲間に入れて喜んでいる。

[宮永委員]

・先ほど、地域理解促進の基本に戻るといふ話が出たが、地域理解促進の理解が進めば、災害時にすぐ対応できるという事だと思う。私の地域の自治会長が各家庭に「個人情報をお願いします。これは災害時の時に〇秘事項として取扱うので教えて欲しい」と実施した。福井市は障がい福祉課も危機管理課も言っていない。逆に言うと、災害に使える地域理解促進の理解という位置づけでお願いしたい。

[北山委員]

・別個にしましょうと言っているのではない。特別な存在ではないという事、また地域移行にも繋がる話でウエルカムできるようにというのが原点だったと思う。もう少し防災に力を入れるということで、中途半端にしない方がいいので、離すという事を言った。研修の場で防災の話をしなやか言う事ではない。

[大角委員]

Q:災害の事は居宅部会で取り組むという話を、協議会の全体会で話をして、OKもらえているのか。

[吉村会長]

A:ここでみなさんのご意見を聞いて全体会で話す。

[大角委員]

Q:居宅支援部会が主導とってやります。という報告を運営会議に挙げていくのか。

[吉村会長]

・皆さんのご意見はいかがか。私が勝手に決めるのではなく、主導権を握るところまではどうか。

[竹澤委員]

・大角氏が言いたいのは他の部会と重なっていたら、意味がないのではということではないか。

[大角委員]

・他の部会もやろうとしているなら、もっと広い話になってくる。今この部会で災害を別に出来るのかと思う。

[北山委員]

<p>まとめ</p> <p>意見等</p> <p>協議結果</p>	<p>・「人材育成」と似ている。この部会だけではスケールが大きい。福井市全体に関わる話になる。運営会議では「居宅支援部会で災害の話が出ました」と報告し、そこでも意見を聞く、ではどうか。</p> <p>[大角委員]</p> <p>・居宅部会だけで大丈夫なのかという声がかかるかもしれない。</p> <p>[北山委員]</p> <p>・課題提起ではどうか。</p> <p>[吉村会長]</p> <p>・親亡き後の課題も、こども部会と協力していかないといけない。地域理解促進については地域移行地域定着とは去年は連携したが、タックを組んでやれたかというところではなかったので議題に挙げていく。</p> <p>ワーキングチームでグループ案を出したので、これへの意見と、次回の集まる日程を決めて欲しい。(別紙参照)</p> <p>[竹澤委員]</p> <p>・運営会議で他の部会とすり合わせをする前に、ワーキングチームを作っているのか。</p> <p>[吉村会長]</p> <p>・運営会議が5月20日にあるので、皆さんに情報を提供するので20日以降はどうか。事務局も各チームに入る。</p> <p>[事務局・坪田]</p> <p>・地域移行定着にも事務局として関わっている。「施設や病院から地域へ、その人らしく地域で暮らすための課題」の方向で進めている。地域理解促進に関しては協議が進められると思う。災害は居宅部会だけではやっていけないという話が出るかもしれないが、地域移行定着部会とは災害は被らないと思う。大きな問題はないと考える。</p> <p>[宮越委員]</p> <p>・2つ入ってもいいのなら、地域理解促進にも入りたい。勉強させて欲しい。→部会員了承</p> <p>[橋本委員]</p> <p>・地域理解促進に入っているが、災害の対応について、以前も大雪なのか洪水なのか地震なのかまとまらなかった。起こった災害にどう対応するかも大事だが、共助の部分、災害にあった人達を見守るところから始めればいいのか。いつ何が起こるか分からないけれど、地域の方が見守りが出来るということになると、繋がっているのではないかと思う。</p> <p>[北山委員]</p> <p>・災害は保留と思っていたが、併行してやっていくと理解した。</p> <p>[吉村会長]</p> <p>・この後、各グループで日程調整をして頂きたい。出来なければメールで調整して欲しい。</p> <p>[障がい福祉課・城戸氏]</p> <p>・6月には各ワーキングメンバーで調整して、1回目開催して頂きたい。</p>
<p>次回</p>	<p>令和 7年 8月 14日(木) 10 : 00～ (場所)未定</p>